



みち 古道が紡ぐ物語



歴史ロマン溢れる葛城の道②

～^{ながら}名柄集落（御所市名柄）から藤岡家住宅（五條市近内）^{ちかうち}まで～

葛城山麓沿いの様々な寺社旧跡を結び、いにしへのロマンを現代に伝える葛城の道。前回に引き続き、御所市名柄から南へと進みます。道中、葛城氏ゆかりの遺跡や神社、天孫降臨の地と伝わる高天原など、神話や史実が重なり合うスポットを巡るとともに、江戸期の庄屋の趣を残す「藤岡家住宅」と、その観光資源利用に努めるNPO法人の活動等、地域活性化の動きもお伝えします。

名柄集落から葛城の道歴史文化館へー御所市

江戸期に宿場町として栄え、明治期の面影を残す家並みが美しい名柄集落。軒先に杉玉を吊るした昔ながらの造り酒屋を脇に見ながら、近畿自然歩道（葛城の道）を南西へ約1.5km、山麓線（県道30号線）を越えた先に、極楽寺がある。

極楽寺のほど近く、奈良盆地を一望できる高台で、2005年に発掘されたのが極楽寺ヒビキ遺跡である。柱や塀の焼失痕が見られたことから、発掘当初は、雄略天皇に滅ぼされたと日本書紀に伝わる大臣・葛城円^{おのおみ かつらぎのつぶら}の居館跡ではないかと話題になった。詳しい調査の結果、日常生活の痕跡が見られないため、何らかの政治・祭祀施設であろうという見方が現在では一般的となっている。

極楽寺から西に700mほどあぜ道を進み、森に覆われた山道を越えた先に、高天寺橋本院が現れ、その脇の開けた一帯が、天孫降臨の神話で有名な高天原^{たかまがはら}伝承地である（高天原は、ここ御所市高天^{たかま}の他、宮崎県西臼杵郡^{にしうすき}の高千穂^{たかちほ}町に比定する説等、諸説ある）。



奈良盆地を一望できる葛城の道（御所市増付^{まし}近より撮影）

高天寺橋本院から南西に約800mほど離れた場所に建つ高天彦神社^{たかまひこ}（御所市北窪）は、葛城氏のおやがみ^{おやがみ}祖神たる高皇産霊尊^{たかみむすびのみこと}を主祭神として祀る。ご神体は神社の後ろにそびえる白雲峰^{しらくものみね}で、三輪山^{みわやま}を神体山とする大神神社^{おおみわ}と同様に、拜殿のみを有し、本殿を持たない古社である。



高天彦神社（御所市北窪）（上）と「史跡高天原」碑（同高天）（左）

高天彦神社から、再び山麓線を目指し東へ約1.7km進んだ先には、行基が逗留した菩提院跡に建てられ、空海も参籠したという名刹、菩提寺がある。菩提寺から葛城の道に沿ってさらに南下すること約1.2km、高鴨神社^{たかかも}（御所市鴨神）に至る。

高鴨神社は、数ある式内社^{しきない}の中でも明神大社^{みょうじん}という最高の社格に列せられた。葛城川沿いに下った位置にある葛木御歳神社^{かつらぎみとし}を中鴨^{なかかも}、更に下った鴨都波神社^{かもつば}を下鴨神社^{しもかも}と呼ぶのに対し、同社の別名は上鴨神社^{かみかも}。鴨一族の出身地とされる当地に建つ同社は、全国の鴨^{かも}（加茂・賀茂）神社の総本社とされる（葛城の鴨氏と、京都の上賀茂神社・下鴨神社を奉斎する鴨氏とは別氏族であるとする説もある）。

リニューアルされた葛城の道歴史文化館（下）



高鴨神社本殿（御所市鴨神）
（上）

高鴨神社のすぐ隣、葛城の道歴史文化館（御所市鴨神）は、日本最初のヘリテージセンターとして1986年に開館。以来、長く葛城の道を散策する上での情報拠点、休憩所として利用されてきた。近年リニューアルし、展示室の床いっぱいに、葛城の道を一望できる航空写真が設置されたほか、館内に手打ち蕎麦屋がオープン。食事もできるようになったことで、コミュニティ拠点として一層の利活用が進むことが期待される。

観光の中核として期待される藤岡家住宅—五條市

ここから1kmほど南に向かうと、近畿自然歩道（葛城の道）の終点、旧高野街道沿いの風の森神社（御所市鴨神）に至るが、いま少し、藤岡家住宅（五條市近内）まで足を伸ばしたい。

藤岡家住宅は、内務官僚や官選知事を歴任する傍ら、俳人としても活躍した藤岡長和（俳号・玉骨）の生家である。江戸期の庄屋の趣を残す母屋（天保3（1832）年）や、内蔵（寛政9（1797）年）等、10件もの登録有形文化財を有するほか、玉骨との親交深い与謝野鉄幹・晶子夫妻や高浜虚子らの短冊や書簡など、文学的にも貴重な資料を多数所蔵している。

1,300㎡の敷地に10棟の建物で構成される同住宅は、個人が居住するには余りある大きさのため、長く空き家となって傷みが進んでいた。そこで2006年3月、玉骨の孫にあたる現当主が、地域のためにと私費で復元工事を開始。修復に3年の歳月を要し、かつての佇まいを取り戻した同住宅は、2008年11月から一般公開されている。

維持管理や来訪客の案内を担うのは、特定非営

利活動法人うちのの館と、そのサポーター会員（ボランティア）の「家守倶楽部」である。

うちのの館では、句会・音楽鑑賞会等の催しや、季節に合わせたランチサロン（昼食付き見学ツアー）等のイベントを定期的で開催。新規客の呼び込みと並行し、リピーターの獲得にも余念がない。

また昨年には、大阪市からコミュニティバスを競売で落札。真っ赤なマイクロバスは「きずな号」と名付けられ、近隣の駅や宿泊施設のほか、うちのの館が指定管理者を務める五條文化博物館をはじめ、周辺観光スポットへと無料で送迎し、周辺の活性化に寄与している。

藤岡家住宅をこの地域における観光の中核的施設とすべく、奮闘を続けるうちのの館。今後の活動に期待が集まる。（葛城の道編終わり）

（太田宜志）

リノベーションで瀟洒な茶房に生まれ変わった隠居の間（下）



藤岡家住宅（五條市近内）の外観（上）

「葛城の道」道程図

